

令和7年度 石川県社会福祉審議会 議事録

1 日時 令和8年3月23日（月）13:30～

2 場所 石川県庁1102会議室

3 出席者 別紙委員名簿のとおり

4 議事内容

(1) 審議事項

委員長の選任について

- ・委員の互選により、委員長に前委員を選任

(2) 報告事項

- ・各分科会の今年度の活動報告等について
- ・社会福祉施設における防災計画作成指針の改定について

(3) 意見交換

(委員長)

ただ今の説明につきまして、ご意見等ございましたらご発言をお願いします。

(委員1)

ただいまのご説明どうもありがとうございました。防災計画策定指針のことで2点お伺いしたいことがございます。

まずお伺いしたいのは、策定委員会の構成員についてです。

私は看護大学で災害実践看護学講座を昨年度から立ち上げさせていただき、県の多大なるご支援を得て、講座は稼働しているところでございます。私も医療職として一端を担っておりますので、先般の地震のときに能登の方から被災されてこられた高齢者の方々を受け入れた経験がございますが、身体的あるいは精神的に様々な障害のある方が少なくありませんでしたので、一番困りましたのは高齢者の方々の施設入居

でございました。そのときの情報の不足に加え、感染症対策や、いわゆるフレイル対策というものは非常に重要だと感じたところなのですが、同時に医療情報の速やかな移動というのはなかなか大変だと感じました。

そういう意味ではこの構成員のメンバーにほとんど医療職が入っていないということ、また、防災計画でもあるにもかかわらず、防災士の方々があまり加わっていないというようにも感じております。

また、避難所運営などについては、男女関係なくではありますが、やはり非常に女性の問題が大きいです。そういった視点から見ると、実際構成員の男女の割合が非常に偏っているようにも見えます。このあたりについて、今後何か改善やご提案などがあるのだろうかという点が、まず一つ目、構成員に関する質問でございます。

もう一つは医療情報などについてお伺いしたいと思います。もちろん個人情報など諸々ありますが、服薬や感染症の問題に関して対応が十分ではないために、もしかしたら災害関連死が増えたのではないかということも聞いており、気がかりに感じております。こういったご意見などがどの程度反映されているのか教えたいと思いました。

(窪田次長兼長寿社会課長)

まず、構成員について、医療職、防災士、女性の視点が足りないのではないかとのご指摘ですが、医療に関しては、名簿にも記載ございますけれども、当時広域避難にご協力いただいたDMATの先生にも構成員として入っていただいております。医療の面から見た防災計画のあり方という視点でアドバイスいただいております。

次に防災士の方について、直接防災士という立場ではありませんが、構成員である学識経験者の青木先生は非常に防災にお詳しい先生です。県の防災の関係でもいろいろ関わっていただいておりますので、防災の視点からご意見いただいたということでございます。

女性の構成員につきましては、確かにこの名簿上は1名のみとなっておりますが、確かに避難所運営という部分はあるのかもしれないのですけれども、どちらかというところの指針につきましては、避難所というよりは、災害が発生したときに施設がどのように運営を継続していくか、そのために日頃からどういう備えが必要かということを中心に検討しておりましたので、ご意見として賜らせていただきます。ありがとう

ございます。

また、医療情報集約、感染症について、確かにこの話をよくお聞きしました。まさにこういうことを災害に備えて平時からリスト化して、何かあったときには持ち出しましょうということを、今この指針の中で決めさせていただいたということでございます。

(委員1)

どうもありがとうございます。今後ともまたどうぞよろしくお願ひしたいということと、看護大学もぜひご活用いただきたいということで、発言させていただきました。

(委員長)

他にございませんか。

そのほかにないようでございますので、これをもちまして審議会を閉会とさせていただきます。